

後場は急速に伸び悩み

平均株価は4日ぶり小反発

平均株価は4営業日ぶりに小反発。米株高や機械受注統計の改善などを受け、朝方は上げ幅を拡大する場面も見られたが、後場は急速に伸び悩んだ。前引けの時点で9500円を回復できなかったことで、先物へのヘッジ売りや、オプション絡みのテクニカルな売りが出たとされる。しかし、アジア株が堅調に推移していることに加え、円が対ユーロでは反落に転じたことが、指数への寄与度の高い値が国際優良銘柄の買い戻しを誘う形となり、値下がり銘柄数が過半数を超える状況のなか、指数は小幅高を維持した。平均株価は、前場の9510円を高値に、後場は一時9393円まで下落し、安値圏で終了。東証1部の騰落銘柄数は、値上がり604(36%)、値下がり892(53%)。一方、TOPIXは832.86(821.83ポイント)の動きで小幅ながら3日続落。東証1部出来高は18億9023万株。(J)

▲東電が下げ渋り▲

株式市場では、朝安の東電(9501)が下げ渋り、前日比変わらずの1900円で引けた。前日に公募価格を決定したが、増資自体へのネガティブな見方を背景に、一時は連日で年初来安値を更新。ただ、材料出尽くしに伴う買い戻しで次第に持ち直す展開となった。一方、JQの萩原電気(7467)が後場に急伸。午後には中間期の業績予想を上方修正したことが買いのきっかけ。好業績小型株として注目を集めた。このほか、消費者金融株が軒並み下落。上場2日目のトランザクション(7818)は一時、同12円安の1001円まで売られたが、大台割れが目前に迫ると押し目買いで抵抗感が強まり、同7円高の1020円で引けた。(V)

◆都市再生機構が主幹事指名◆

都市再生機構が3年・5年・10年債の3本立ての起債を検討しており、主幹事に大和証券CM(事務)、みずほ、しんきんを指名した。発行額・時期は未定で、主幹事と協議して決定する。(F)

★円、年初来高値に面合わせ★

午後のドル・円相場は、円が午後81円73銭まで上昇し、午前の年初来高値に面合わせとなった。引き続き、95年4月26日の81円15銭以来、約15年6カ月ぶりの円高水準。前日午後5時の81円92(94)銭に比べ、10銭前後の円高で取引米ドルの先安感が持続するなか、平均株価が上昇幅を縮小しているものの、アジア株が軒並み上昇し、目立ったリスク回避に伴う円買いは出ていない。前週に日銀の包括的緩和などでクロス円を中心に円売りが進み、今週に入ってからクロス円が調整したが、昨日の海外市場で再び円安に振れたことで、クロス円の売り売りが意識され、円のジリ高にながったとみられている。ユーロ・円は114円台前半で円が下げ渋り。一方、ユーロ・ドルは1.39ドル台後半

までユーロが値を戻したが、ユーロ当局からユーロ高けん制が出た1.4ドルを目前にして伸び悩み。(U)

⊕3M短期入札は順調⊕

きょうの3カ月短期入札の最低落札価格は99円97銭1厘5毛(0.1061%)となった(本日付MM版に各社別落札結果)。応札倍率は6.54倍で、前回債(5.94倍)を上回った。平均落札価格は97銭1厘7毛(0.1054%)。最高落札金利は前回債(0.1035%)を上回る水準。前週の追加緩和決定以降、市場が目線を徐々に定めていくなか、0.10%前半での運用ニーズは限定的となったが、入札そのものは総じて順調な決着だった。入札後の業者間取引では、平均く足切り前後での出合いが観測され、その後の水準での買い意欲が残るなど堅調推移。(E)

●足元加重は0.08%台●

午後の無担保翌日物は0.08(0.09%)前後が中心の落ち着いた取引で終了した。加重平均は0.08%台の見込み。短期市場は新発債以外は動意薄。日銀は午後、共通担保資金供給(本店・金利入札方式)8000億円程度(10月14日(29日)、同(全店・固定金利方式)8000億円程度(10月15日(11年1月13日))を通知した。(E)

◎円金先は動意薄◎

ユーロ円金利先物相場は横ばい圏で動意薄。債券先物は重い足どりをかせているものの、中短期債は横ばいとなっていることで、模様眺め気分の強まるなか、動意薄の展開となっている。午後3時5分現在、11年6月限は99.715(725)の動き。出来高概算は5600枚。一方、期近の12月限は99.680(685)の動きで2100枚。(W)

※円金利スワップは小動き※

午後の円金利スワップは小動き。相場のこう着感から目立った方向感を生じていない。10年の気配は0.99375(89375)。(E)

◇国債先物は3日ぶり反落◇

長期国債先物相場は3営業日ぶりに反落。株価の底堅い動きなどを背景に、朝方から売りが強まったが、一巡後は株価の伸び悩みとともに後場は下げ渋りとなった。目立った材料が見あたらないなか、前場に見られた現物長期債に対する売りが気掛かりとの声もあり、あすの30年国債入札を控えるなか、終始、上値追いの動きは手控えられた。追加緩和政策が実施されて以降、一定のステイプ化が進んだなか、改めて超長期ゾーンの投資家需要を見定めたい、といった姿勢が見られている。先物12月限は、前場の143円78銭を安値に、後場は143円81(99)銭の動き。出来高は2兆6529億円。一方、現物債では、指標の10年311回債で0.860(890)の動き。5年91回債は0.225(240)の動き。20年121回債は1.685(685)の各出合い。(W)

2010.10.13		午後3時現在	
ドル/円	81.87	▼0.05	
ユーロ/円	114.27	△1.11	
平均株価	9403.51	△14.87	
TOPIX	822.65	▼1.95	
225先⑫	9410	△10	
国内CB単平	101.30	-0.03	
債券先物⑫	143.91円	-0.15円	
311回債	0.875%	+0.025%	
310回債	0.860%	+0.025%	
309回債	0.825%	+0.025%	
5年91回	0.235%	+0.010%	
超長期121回	1.735%	+0.055%	
円・円スワップ	気配(%)15:00現在		
2年	0.42875	~	0.32875
3年	0.43625	~	0.33625
5年	0.50375	~	0.40375
10年	0.99875	~	0.89875
無担保翌日物	0.085%	程度	
ユーロ円現物金利			
1カ月	0.12%	~	0.07%
2カ月	0.13%	~	0.08%
3カ月	0.15%	~	0.10%
短期141回債	-		±0
ユーロ円金先⑥	99.725	+0.005	

※無担保翌日物は中心、比較は前営業日、ドル・円は午後3時30分現在の気配値、円金先は清算価格、現物国債は午後3時20分現在のBB出来値

※過去記事検索はF N W e bで

中国貿易黒字、前年比30%増

9月、200億ドル割れも高水準続く

中国税関総署が13日発表した9月の同国貿易黒字は16億8000万ドル(約1兆3800億円)と、前月比15・7%減少、4カ月ぶりに200億ドルを下回った。ただ、前年同月比では30・5%増加。高水準の黒字が続いている。輸出は前年同月比25・1%増の1449億9000万ドル、輸入は24・1%増の1281億1000万ドルと、月間ベースで過去最高を記録した。伸び率は輸出、輸入ともに前月を大きく下回った。一方、1～9月の輸出は前年同期比34・0%増の1兆1346億4000万ドル、輸入は42・4%増の1兆0140億4000万ドル。貿易黒字は1206億ドルと、同10・5%減少した。金融危機が深刻化する以前の08年1～9月と比べると、輸出は5・4%増、輸入は13・5%増となっている。(この項時事 T)

通貨戦争のリスクはない

ガイトナー米財務長官

ガイトナー米財務長官は12日、世界的な通貨戦争の「リスクはない」としたうえで、中国に対しては、人民元の価値を引き上げるよう極力求めたいとの意向を示した。ガイトナー長官は公共放送サービス(PBS)の「チャイナ・ローズ・ショー」のインタビュウで、中国が人民元相場を低い水準にとどめるならば、同国は基本的な発展目標に反することになると警告。元相場の上昇について同長官は「長期的にはそうなる」と確信している」と述べ、「われわれはそれが徐々にではあれ、顕著な割合で起こることを確かめたいだけだ」と語った。

景気後退への逆戻り、公算ない

欧州、回復に向け安定し独連銀総裁

ドイツ連邦銀行のウエーバー総裁(ECB理事会メンバー)は12日、欧州は回復に向けた安定軌道に乗っており、景気後退に逆戻りする公算はないと述べた。同総裁は、「

	終値	前日比
ハンセン(香港)	23122.28	+0.58
ST(シンガポール)	3175.91	+26.55
KLSE(マレーシア)	1492.54	+5.97
SETI総合(タイ)	986.03	+8.95
JSX総合(インドネシア)	3587.805	+40.557
ムンバイ SENSEX30種(インド)	20474.17	+270.83
上海総合(中国)	2838.441	-2.966
加権(台湾)	8106.66	+16.44
韓国総合(韓国)	1876.15	+8.11

東京市場 13日

【ドル・円為替先物午後3:30時点気配】

期間	Swap	Spread
O/N	-0.11	+0.01
T/N	-0.06	-0.01
S/N	-0.18	-0.15
1W	-0.42	-0.37
2W	-0.90	-0.75
3W	-1.36	-1.26
S/E	-	-
1M	-2.15	-2.05
2M	-4.63	-4.48
3M	-8.70	-8.40
4M	-11.85	-11.05
5M	-14.73	-14.33
6M	-18.80	-17.80
7M	-22.30	-21.10
8M	-25.90	-24.90
9M	-29.45	-28.15
10M	-34.18	-33.14
11M	-38.10	-37.10
1YR	-43.10	-41.10
2YR	-121.00	-114.40
3YR	-242.60	-232.60
4YR	-415.00	-399.00
5YR	-625.00	-595.00
6YR	-	-
7YR	-1078.90	-1030.90
8YR	-	-
9YR	-	-
10YR	-1602.00	-1550.00

(円付) -:ディスカウント、+:プレミアム

今春のギリシャ危機が示したように、スムーズな回復を望めないことは明らかだが、景気後退に逆戻りする危険は無視できると確信している」と語った。(この項時事 D)

ハンセン指数が年初来高値

13日のアジア株式市場は、前日に下落した反動や下値を拾う動きから軒並み上昇。香港市場の前場は小反発。ハンセン指数は前日比0・58高の2万3122・28。前日に節目の2万3000台を維持したことで、株価が底堅いとの投資家心理の改善につながった。このため、朝方から買いが優勢となり、指数は一時2万3329・32まで上昇し、11日に付けた年初来高値を更新。08年7月24日の2万3369・05以来、約2年3カ月ぶりの水準を回復した。ただ、その後は香港政府の行政長官が施政方針演説で新たな不動産価格抑制策を発表したことが嫌気され、不動産株が軟化。石油・ガスなども売られ、前日比でほぼ変わらずまで鈍化した。上海市場は5日ぶり反落。上海総合指数は、前日比0・04安の2840・28。不動産株や資本財が買われ、通信やヘルスケアが売られ、前日終値を挟んでもみ合い。台湾市場は5日ぶり反発。加権指数は同16・44高の8106・66。前日に売られたヘルスケアなどに買い戻しが入った。このほか、シンガポールST指数、ムンバイSENSEX指数、フィリピン総合指数、マレーシアKLCI指数、タイSET指数は反発。韓国総合指数は売り買い交錯しつつも5日ぶり反発。ジャカルタ総合指数は3日続伸。公益や資本財が買われたが、高値は3589・55で、6日の史上最高値には届かず。(U)

【政府保証債シエラ】★日本高速道路保有・債務返済機構 第121回債 発行額300億円 ☆日興コーポリアル23・33%△三菱UFJモルガン・スタンレー20%△大和証券キャピタル・マーケット、みずほ、RBS各10%△野村、岡三各6・67%△ゴールドマン・サックス、バークレイズ・キャピタル、モルガン・スタンレーMUFJ、BNPパリバ各3・33%

オプション	行使価格	円/ドル	ドル/円
1mo	0.99	1.25	0.99
2mo	1.48	1.78	1.46
3mo	1.88	2.21	1.82
6mo	2.83	3.22	2.68

ドル・円	ユーロ・ドル	ユーロ・円
1mo	11.90 ~ 12.40	13.30 ~ 13.80
2mo	11.90 ~ 12.35	13.25 ~ 13.75
3mo	12.05 ~ 12.45	13.10 ~ 13.60
6mo	12.65 ~ 13.00	13.30 ~ 13.80
12mo	13.20 ~ 13.50	13.30 ~ 13.80

EUR/\$	1.3964	~	1.3965
£/\$	1.5842	~	1.5844
\$/SFR	0.9553	~	0.9556
A・\$/¥	0.9785	~	0.9854
\$/C・\$	1.0086	~	1.0090
相場はドル当り通貨、 £/A・\$/EURは自国通貨当りドル			
£/¥	129.67		
SFR/¥	85.67		
A・\$/¥	80.37		
C・\$/¥	81.14		

	直物	スワップ	合計
\$/円	7,583	47,123	54,706
EUR/\$	6,737	9,798	16,535
£/\$	0	1,260	1,260
\$/SFR	0	0	0
その他	473	6,064	6,537
小計	7,210	17,122	24,332
総計	14,793	64,245	79,038

ドル・コール出来高	1,945
-----------	-------

円	3,050
ドル	3,110
その他	1,472

(円は億円、ドル・その他は百万ドル)

※過去記事検索はFNWebで